

社会福祉法人 SKY かわさき 令和 4 年度事業計画

1. 法人：事業方針

令和 4 年度事業方針：法人設立 3 年目。中期 3 年計画に沿い、透明性、公益性を確保し、地域ニーズを確認する。体制整備を行い経営基盤を安定させる。人材育成と世代交代。

2. 法人重点項目

(1) 透明性、公益性の確保と地域ニーズの確認

- ① 広報誌などによる情報開示(収支状況、苦情・事故報告など)に取り組む。
- ② 地域とのつながりを深め、地域ニーズを確認していく。

(2) 経営基盤の安定

- ① 事業再編を視野に、利用率の改善と加算の算定を可能にする体制整備を行う。
- ② 本部機能の強化
- ③ 会計クラウドを活用し、月次試算表（月次決算）を把握していく。

(3) 人材育成と世代交代

- ① 法人としての義務研修、会計研修、中堅研修、委員会研修などを計画的に実施していく
- ② 次世代を担う職員を育てる

3. 会議・委員会計画

1) 評議員会

定時評議員会として毎年 6 月に開催するほか、必要な場合に開催する。今年度の定時評議委員会終結で理事監事が任期満了となるため、次期候補者の選任及び解任を行う。

2) 理事会

当法人の業務執行の決定、理事の職務執行の監督を行う。3 月ほか必要な場合に開催する。

3) 本部会議

事業、人事、労務、総務にかかわる事項を審議する。構成は各部長とし、原則月 2 回開催する。

4) 所長会

各事業所およびその他の事業について協議し、理事会議事の提案事項を起案する。構成は、各所長とし、原則月 1 回開催する。なお、所長会の分掌会議として以下の委員会を開催する。

(1) 安全管理委員会

各事業所における事故報告・ヒヤリハット等の報告事項を共有し再発防止について検討する。所長会が兼務する。

(2) 苦情解決委員会

各事業所における苦情等の報告事項を共有し再発防止について検討する。所長会が兼務する。

(3) 情報管理委員会

法人内における情報管理にかかる事項について検討する。所長会が兼務する。

(4) 特別委員会

事業所運営に関するこのうち、事業所間で連携して取り組むべき年度課題等について検討する。今年度は地域活動支援センターの再編について検討する。

5) 主任会

各事業所の活動報告を共有し、連携を図る。広報、普及啓発、研修、防災委員会報告事項を協議する。構成は各主任とし、原則月1回開催する。なお、主任会の分掌会議として、法人に設置が義務付けられた(1)～(3)および以下の委員会を開催する。

(1) 感染対策検討委員会

感染症の発生及びまん延の防止等に関する取組について検討する。主任会が兼務する。

(2) 身体拘束等の適正化委員会

身体拘束等の適正化のための対策について検討する。主任会が兼務する。

(3) 虐待防止委員会

利用者の安全と人権保護の観点から虐待の防止とその適切な対応の推進について検討する。主任会が兼務する。

(4) 広報委員会

年2回の通信の発行及びホームページの更新を通じて、各事業所の取り組みを伝えるとともに、法人全体の活動を伝えていく。今年度の重点項目として、広報誌などによる情報開示(収支状況、苦情・事故報告など)及びホームページの求人ページの充実を図る。

予算：320,000円

(5) 普及啓発委員会

今年度の重点項目として、地域とのつながりを深め、地域ニーズを確認していくため、法人主催のイベントや講演会等を年1回開催する。

予算：200,000円

(6) 研修委員会

法人全体で取り組む研修を開催する。今年度の重点項目として、次世代を担う職員を育てるため業務報告会と、職員の間心の高いテーマの内容を行う。

予算：100,000円

(7) 防災委員会

法人内の防災訓練を継続しながら、適宜防災マニュアルの見直しを行う。また、令和5年度までに作成が義務づけられたBCP作成に向けた研修の企画開催をする。

予算：60,000円

4. 事業別計画

1) 障害福祉サービス事業

(1) 共同生活援助事業所 ホーム SKY

- ① アイビーとの連携で卒業支援の充実
- ② 高齢者をはじめ、健康についての課題を深める。(医療体制加算)
- ③ 今後のホームについての検討、情報収集と3年計画の確定
- ④ 防災計画

- ・ 場所 あんじょうやりや、きらくや、すみれ(多摩区登戸)、
ふらっと、みかんハウス(多摩区栗谷)、カンタービレ(麻生区百合丘)
- ・ 従事者人員 22名(所長・常勤9名、非常勤13名)
- ・ 対象者 入居者39名、夕食サービス6名
- ・ 費用見込額 106,630,992 円

(2) 自立生活援助事業所 アイビー

- ① ホーム、他機関との連携をしながら、卒業支援のアフターケアを行う。

- ・ 対象者 6名～8名予定

(3) 就労継続支援B型事業所 はっぴわーく

- ① 利用人数の増加に向け、コロナ禍でも安定した受け入れを目指す
- ② 時給増およびやりがいのある作業提供の継続を目的に各部門にて以下の取り組みを行う。
 - A) 清掃部門：清掃委託料の交渉とマンション清掃における単独清掃への目標設定
 - B) 内職部門：直受けの仕事探し。お試し中作業の目標設定と共有化。作業効率と環境の改善
 - C) ジャム部門：コンサルタント導入による売り上げアップと、新商品開発・ギフトセットやネット販売の確立
- ③ 就労に向けた支援として、就労アセスメントなどの導入を検討し、職員のスキルアップを行う。

- ・ 場所 川崎市多摩区登戸 2959
- ・ 従事者人員 6名(所長・常勤4名、非常勤2名)
- ・ 対象者 定員20名
- ・ 費用見込額 34,051,388 円

(4) 就労継続支援B型事業所 があでん・ららら

- ① 養護学校からの実習生受け入れ体制を整える
- ② 東柿生小学校とのコラボレーション商品を製品化し販売していく
- ③ 支援体制を安定、充実させることで利用者主体の事業活動への基盤作りをする

- ・ 場所 川崎市麻生区下麻生 3-32-5
- ・ 従事者人員 10名(所長・常勤3名、非常勤7名)
- ・ 対象者 定員20名
- ・ 費用見込額 35,068,367 円

2) 相談支援事業

(1) 地域相談支援センター ひまわり

- ① 障害種別や年齢等に関わらず、様々なニーズに対応、コーディネートできるような相談支援を提供する。
- ② 地区担当制の利点を活かし、他機関や地域とのネットワークづくりをすすめるため、地域の会合等にも積極的に出向いていく。
- ③ 新たに医療的ケア児者や、災害時における障害者の避難等に関する支援についても取り組む。

- ・場所 川崎市麻生区百合丘 1-20-7 白井ビル 2 階
- ・従事者人員 3 名（管理者・常勤相談支援専門員 3 名）
- ・対象者 登録者 102 名
- ・費用見込額 19,738,073 円

(2) 相談支援事業所 かみひこうき

- ① 自立支援協議会へ参加し、地域のニーズを把握したり他所と情報交換をおこなう（計画相談）。

- ・場所 川崎市多摩区登戸 2341-1
- ・従事者人員 3 名（所長、常勤 2 名）
- ・対象者 18 名（男性 7 名、女性 11 名）

3) 地域生活支援事業

(1) 地域活動支援センター きたのぼ

- ① 利用人数の回復のため、手芸以外の軽作業の導入や軽度知的の方の受け入れの検討、パンフレットの更新などを行う
- ② 「きたのぼお店化計画」として、地域の方に親しまれる「お店」になることを目指し、玄関扉などハード面の改善、インスタ更新による認知度の向上など利用者の方とともに検討する。また、保育園の注文販売や委託販売先の開拓などイベント販売以外の販路を確保する。
- ③ 人とのつながりを大切に、利用者同士で情報交換できる機会を増やすとともに、ボランティアの受け入れや地域とつながる取り組みに積極的に参加する。

- ・場所 川崎市多摩区登戸 2341-1
- ・従業者人員 5 名（所長・常勤 2 名、非常勤 3 名）
- ・対象者 30 名（男性 2 名、女性 28 名）
- ・費用見込額 16,889,577 円

(2) 地域活動支援センター さくらスタジオ

- ① 5年間の活動の振り返りでニーズがあることが確認できた、社会参加の第一歩としての社会資源の役割を担う活動を継続する。
- ② 利用者の自己実現の場を得るため、公共施設の利用やインターネットの活用等の新しい取り組みを検討、実施する。
- ③ 就労やグループホーム入居をしている当事者・関係者等を招いた講習会や交流会を開催し、利用者の目標の設定や実現の為の支援をする。
- ④ コロナ禍での閉塞感や孤独感を和らげる為、感染対策に十分配慮しながら、楽しい時間を共有できるプログラムや外出レクを検討、実施する。

- ・場所 川崎市麻生区片平 2-29-1-B1
- ・従業者人員 3名（所長、常勤2名）
- ・対象者 35名（男性9名、女性26名）
- ・費用見込額 13,341,989 円

(3) 地域活動支援センター 紙ひこうき

- ① 定期的に活動費の執行状況を共有し、修繕積立など検討する。
- ② 個別支援の強化（個別支援計画とモニタリングの実施）と課題整理。
- ③ 地域ネットワーク会議を開催し、地域ニーズについて関係者と情報交換をおこなう。

- ・場所 川崎市多摩区登戸 2341-1
- ・従事者人員 4名（所長、常勤2名、非常勤1名）
- ・対象者 70名（男性32名、女性38名）
- ・費用見込額 17,984,670 円（拠点区分かみひこうきとの合算額）

(4) 北部地域生活支援センター ゆりあす

- ① 「一人ひとりが、一人じゃないんだ」を合言葉に、生活支援、退院支援、相談支援、自主的活動の支援、地域交流を活動の5本柱とし、精神障害のある方の地域生活における支援拠点として安心して過ごせる場所や地域づくりをすすめていく。
- ② それぞれの活動においては当事者の持てる力を十分に活かし、当事者と専門職が協働しながら運営していく。また、福祉サービスの作り手・担い手として、ピアサポーターを育成していく。
- ③ 地域定着支援事業を新たに実施。人と繋がりたいのに繋がれていない方へ向け、「待ち受け」型の支援だけではなく、ピアスタッフとの訪問等を通じた繋がりのお機会を積極的に生み出していく。

- ・場所 川崎市麻生区百合丘 2-8-2 北部リハビリテーションセンター2階
- ・従事者人員 11名（所長・常勤6名、非常勤1名、ピアスタッフ4名）
- ・対象者 202名（男性111名、女性91名）
- ・費用見込額 37,163,754 円